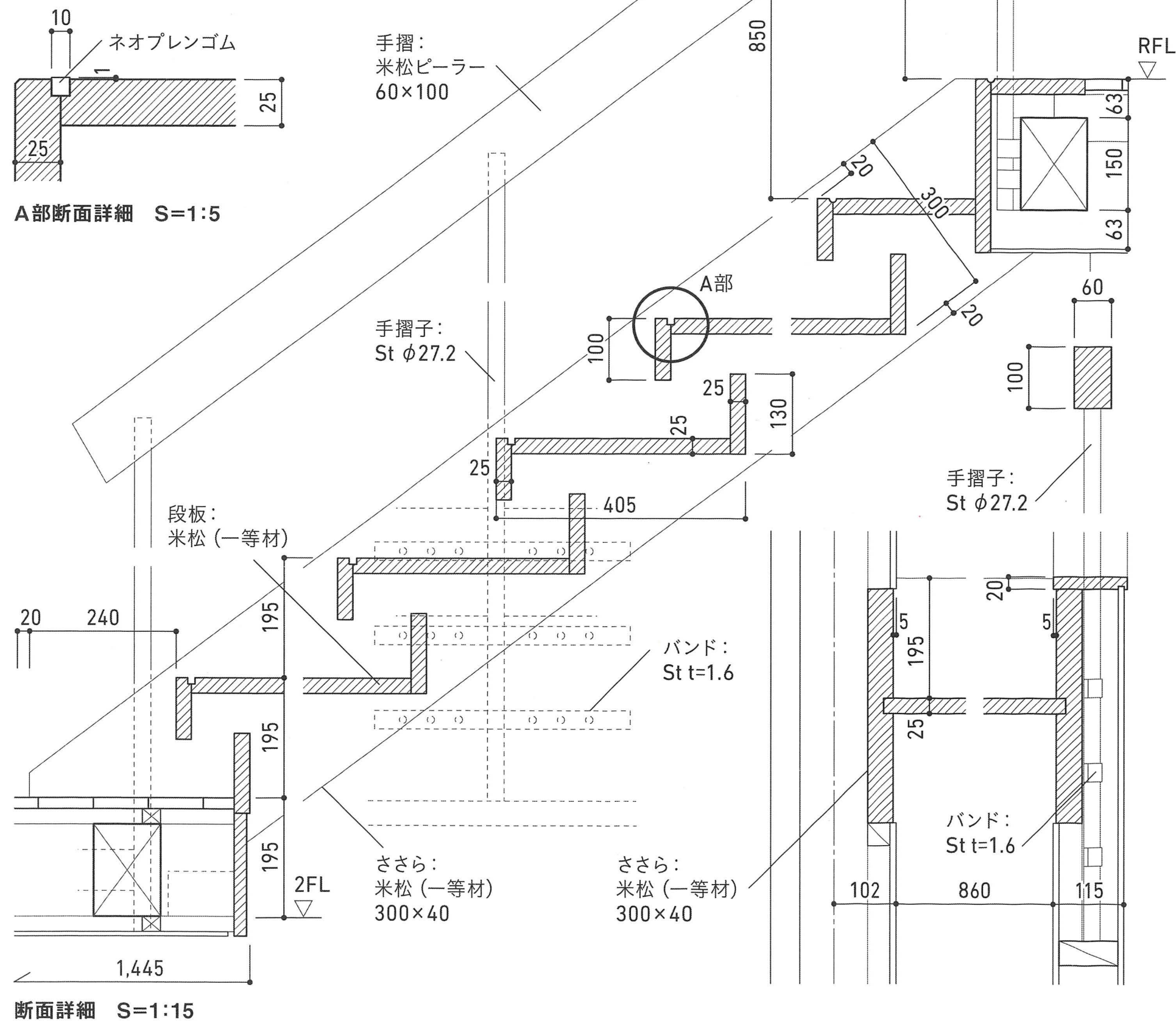




手摺子の数を減らすため、根元は壁の中に深く埋め込まれ、スティールのバンドによって支持されている。ミニマルと実用上の強度の両立を、見えないディテールが支えている。



階段・手摺  
20

## 米松と鉄のコンポジション

矢板久明・上野武「南軽井沢の家」1992年

建築空間の中でも階段に対する付加要素として扱われることが多い手摺であるが、ここではシンプルに無垢米松と黒い鉄丸棒を組み合わせることで、抽象絵画のように表現されている。手摺子の径をあえて太

く、数を少なくしていることもミニマルな空間全体の意匠と調和し、手摺という二次的要素でありながら、壁や床、天井といった空間のコンポジションに組み込まれている。(K)